

【大台ヶ原】

吉野熊野国立公園の核心部に位置し、標高1,695mの日出ヶ岳を最高峰とする台地上の地形には、トウヒやウラジロモミ、ブナなどの自然林がまとまって残っており、大型哺乳類をはじめ、多くの鳥類、両生類、昆虫類などが生息しています。また、歩道が整備されており、雄大なパノラマ景観や原生的な森林などを楽しむことができます。

詳細はHPをご覧ください。→ http://kinki.env.go.jp/nature/odaigahara/odai_top.htm

【大台ヶ原での自然再生】

昭和30年代の伊勢湾台風等による風倒木の発生、ニホンジカの個体数の増加、利用者の増加など複合的な要因により、トウヒやウラジロモミ、ブナをはじめとする森林植生の衰退が進行したことから、環境省は昭和61年から対策に着手、平成17年には自然再生推進計画を策定し、現在、第三期計画となる「大台ヶ原自然再生推進計画2014」（平成26年度～）に基づき、「森林生態系、生物多様性の保全・再生」「ニホンジカ個体群の管理」「持続可能な利用の推進」を中心とした自然再生の取組を進めています。



※写真協力: 菅沼孝之

【主な取組と近年の成果】

大規模な防鹿柵（67基 89ha）や稚樹保護柵等による森林生態系の保全・再生

※防鹿柵内の植生回復状況

（参考No. 31防鹿柵）

写真左：設置前は湿地性植物少ない

写真右：設置後10年で湿地性植物群落
が回復

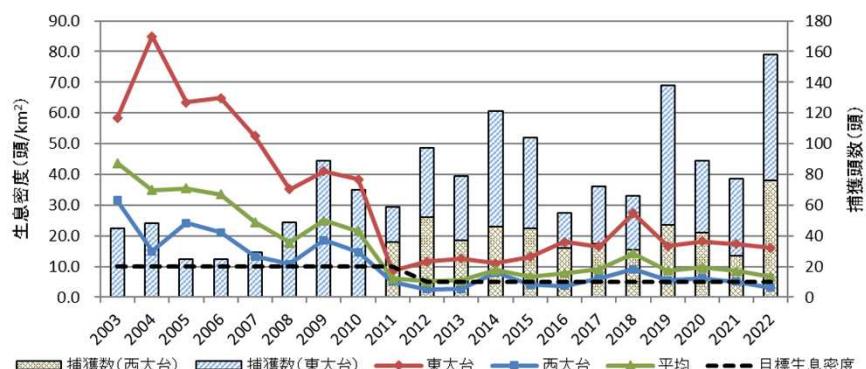


生息密度5頭/km²を目標としたニホンジカの捕獲

- 環境省・林野庁・上北山村によるニホンジカ対策の連携協定（H29）連携捕獲の実施

※ニホンジカの生育密度は2003年に40頭/km²を超えていたが、捕獲の継続により、近年10頭/km²前後で推移。（右図）

令和4年度は捕獲数は過去最多となった。



持続可能な利用の推進・普及啓発

大台ヶ原の魅力を伝える自然ガイドの登録制度の推進、環境教育推進のための情報整理等を実施。

登録ガイドや自然再生委員による大台ヶ原ガイドイベント（ガイドウォーク）、ユネスコエコパークと連携した実施学校教員向けエクスカーション事業を実施



教員向けエクスカーション



大台ヶ原ガイドウォーク